

教団新報

定価 1部220円(本体200円+共283円)
予約購読料 1年分 千共 3,962円
紙代のみ 3,080円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 網中彰子
編集主筆 嶋田恵悟
印刷所 株式会社きかんし

2025年度

東京・東北・奥羽・西東京・東中国・東海・沖縄

教区総会報告 ③

将来に向けて課題に取り組む

東京

支区交付金の減額に取り組む

第85回東京教区定期総会が5月27日、富士見町教会にて開催された。開会時の正議員の出席者数は451名中、312名だった。

教区の推薦を受けられなかった件で対応を質す発言があった。

教区三役選挙では、渡邊議長と伊藤英志副議長がそれぞれ再選を果たした。また議長と副議長の合議により原田裕子書記が新たに選出された。なお原田教師は常任委員の任期途中であるため、前総会における常置委員半数改選選挙の次点者である大久保正禎教師(西片町)を繰り上げることが議場に諮られ承認された。

教団問安使として黒田若雄教団総会書記が挨拶に立った。問安使挨拶に対しては、出版局が教団

より2000万円を借り入れた件について質問が出た。これについて黒田書記のほか総会議員として出席していた出版局の高橋潤理事長、網中彰子局長代行も回答にあたった。

24年度決算の収支差額は総会引当金から100万円、教区資金から700万円を繰り入れた上で5343円の差益という非常に厳しい状況であると説明された。特に教区資金はこのままでは近い将来に枯渇する恐れがあるとの説明があった。

東北

「主の希望に生きる教会」を主題に

第80回東北教区総会が、5月27、28日、東北教区センターエマオで、開会時正議員140名中106名が出席して行われた。

常置委員会報告では、高橋真人議長が、「第80回東北教区総会を迎えるにあたって」を朗読。2024年度は、教区財政が逼迫していることを

受けて、交通費減額や予算内執行をめざしたと、中期的課題として委員会再編の検討を進めていること、「放射能問題支援対策室いずみ」の甲斐腺検査が100回を迎え、機器の更新をしたこと等を報告した。また、昨年8月に「戒告」の処分を受けた、前・涌谷教会教師が、別組織である「涌谷保育園」の理事長として留まっていることが受けて、常置委員会として「辞任勧告」をすべく書面を届けたことを報告。「地方の小さな教会の歩み、関連施設の働きをこれ以上滞らせないために、教区としてなすべきことを重ねて行く」とを次期常置委員会に求めた。

協議の中で、東日本大震災に関する教区の取り組みを評価しつつ、風評

24年度比50%とすることを目指す。予算案は異議なく可決された。

議事終了の時点で常置委員半数改選選挙の開票作業が完了しておらず、なお時間を要する見込みのためこのまま閉会し、閉会後は三役と任期継続の常置委員立ち会いのものとで開票を継続すること、結果については後日郵送することが提案された。議場は異議なく了承



左から、伊藤副議長。渡邊議長、原田書記



左から、新田宣教部委員長、荒井議長、瀬谷副議長、齋藤書記

「教務教勢諸報告」の中で、瀬谷寛書記が、県別の教会数・教師数を記載する際、今回から兼務・代務の数を記載するようになったことを告げ、「教区81教会・伝道所の内19が兼務・代務」と述べた。24年度決算、25年度予算(案)を承認した。決算報告の中で、関川祐一郎財務委員長は、経常会計において予算内に収まったことを報告しつつ、近年、別途積立金から200万円程を繰り入れることによって経常会計が成り立っていること、積立金会計が2500万円程であるこ

とを告げ、今後の教区形成について検討する必要性を指摘した。

「東日本大震災に関する件」では、2011年第66回教区総会において可決された「東日本大震災対応及び東京電力福島第一原子力発電所事故対応に関する件」の基本姿勢、および、「教会救援特別会計」、「放射能問題支援対策室いずみ」等の働きを継続することを可決した。

2025年度東北教区宣教計画(案)に関する件では「22、31年度東北教区長期宣教基本方針」に則り、主題を「主の希望に生きる教会」とする宣教計画を承認した。

東北教区地区規則(準則)改定に関する件では、地区総会の構成する信徒議員について、「代表する信徒」とある現行規則を、「役員たる信徒」と変更することを可決した。

教団問安使として、黒田若雄書記が挨拶した。

出版局よりお知らせ
出版局の7月の休業日は、7月18日(金)です。

【信徒】大城操(洗足)、守安久美子(船橋)、大友太郎(経堂北)、川添裕一(自由が丘)、佐藤深之(亀戸)
(米山恭平報)

【教職】藤盛勇紀(富士見町)、古旗誠(目白)、岸憲秀(千葉本町)、遠藤忠(むさし小山)、篠田真紀子(浅草)

【議長】渡邊義彦(柿ノ木坂)、【副議長】伊藤英志(三軒茶屋)、【書記】原田裕子(葉田台)

常置委員選挙結果(半数改選)
【教職】藤盛勇紀(富士見町)、古旗誠(目白)、岸憲秀(千葉本町)、遠藤忠(むさし小山)、篠田真紀子(浅草)

【信徒】大城操(洗足)、守安久美子(船橋)、大友太郎(経堂北)、川添裕一(自由が丘)、佐藤深之(亀戸)
(米山恭平報)

【議長】荒井偉作(名取)、【副議長】瀬谷寛(仙台東一番)、【書記】齋藤篤(仙台宮城野)、【宣教部委員長】新田恭平(猪苗代)

常置委員選挙結果
【教職】布田秀治(いずみ愛泉)、中本純(仙台東六番)、福島純雄(福島)

【信徒】森陸(天童)、齋藤仁一(山都)、石原裕子(常磐)
(新報編集部報)

奥羽

「人権侵害防止委員会」を設置

第80回奥羽教区定期総会が、5月20～21日にかけて奥羽キリスト教センターチャペルにて開催された。開会時、正議員109名中84名の出席があり総会は成立した。また准議員29名中4名の出席があった。

議案第4号准允受領願いの件が承認された後、直ちに准允式が執行され、新しい教師が立てられる喜びが議場全体で分かちあわれた。

今総会は教区三役・常置委員の改選の年であったが、選挙に先立ち教区三役・常置委員の同一役職連続任期を3期までとする教区規則変更について諮られ、承認の後選挙



准允式

が実施された。昨年度策定された奥羽教区「第7期教区長期宣教基本方針」の中で、「多くの人がさまざまな課題に関わるしくみ（長期宣教基本方針より）」をつくる目標が掲げられたことを受けてのものであった。

定・規則を定め、窓口の具体的な運営に入っていくこととなる。

二日目の追悼礼拝に続いて、教団問安使として網中彰子総幹事が挨拶し

た。教団の教師論について、沖縄教区との関係回復についてなどの質疑応答が交わされた。

今年度の宣教計画について、特にこの10月に部落解放全国会議が初めて奥羽教区を会場として

閉会祈禱をもって終了した。

三役選挙結果

【議長】小林よう子（八戸小中野）、【副議長】多勢眞（五所川原）【書記】松浦裕介（下ノ橋）

【教職】鈴木道也（花巻）、中西絵津子（脇本）、柳谷雄介（新生金石）

【信徒】遠藤清賢（江刺）、宮腰桂子（鷹巣）、上原恵（三本木）（松浦裕介報）

三役・常置委員（半数改選）の選挙が行われた。

三役選挙結果

【議長】岩田昌路（泊江）、【副議長】衛藤満彦（玉川）【書記】長尾大輔（相愛）

常置委員選挙結果（半数改選）

西東京

立川開拓伝道、新たな幻の構築を目指す

第51回西東京教区定期総会は、6月1日から2日にかけて阿佐ヶ谷教会を会場に行われた。開会時、正議員188名中133名の出席があり、定足数62名を満たして成立した。

また、礼拝の中で古屋治雄常置委員の司式により聖餐式が行われ、参加者一同、聖餐の恵みを共にすることが出来た。

「2025年度宣教活動計画に関する件」では、立川開拓伝道に関して、信徒の交わりを深めつつ、新たな伝道の幻の構築を目指すこと、青年伝道に関して、各教会で青年委員会を開催し、青

年の連帯をはかること等を決議した。「2024年度教区歳入歳出決算承認の件」、「教団年金を守るための教区推進案に関する件」などが可決された。

「2025年度西東京教区総会への教会互助制度に関する議員提案」では、謝儀の少ない教師への互助が提案されたが、83名中、賛成17名で否決された。尚、この議案審議の中で、西東京教区特別会計規則の中には、既に「教

東中国

「将来的東中国宣教の骨子」具体化に取り組む

開会礼拝は、山口玲子常置委員の司式、岡村恒常置委員の説教により、一同が神を賛美し、み言葉による力を与えられ

第74回東中国教区総会が5月26～27日、岡山県番山町教会で、開会時

正議員84名中60名が出席して行われた。

開会礼拝では、永倉直

嗣牧師（岡山聖心）による説教「山田邦彦牧師和氣・三石」による聖餐式が執り行われた。また二

日目は、藤田和也師（岡山）の准允式が服部修議長（番山町）司式により執り行われた。

教区総会議長報告、常置委員会報告、各地区の承認は、事前に資料を読んで進められ、特に議論となることも無くスムーズな議事進行がなされ、2024年度決算、2025年度予算も可決された。

「将来的東中国宣教に関する件」については、第73回教区総会にて承認された将来的東中国

宣教の骨子③「宣教を担う部署の設置」、および④「委員会全体を通して予算をサポートする費用および部署の設置」について、これまでに様々な議論が進められ、具体化するためには、さらに諸委員会の活動や課題を共有する場が必要であると

の共通認識が得られた。さらに今後2年間、骨子実現のための議論を重ね、具体的方向性と理解

取り、「イスラエル」とされて兄との和解へと歩み出す。▼争いが激化する世界にあって、人々が真に「イスラエル」とされることを願う、「イスラエル」を和解へと導く、御言葉として聞き、且つ、語って行きたい。

左から、塚本書記、服部議長、中井副議長



左から、衛藤副議長、岩田議長、長尾書記



左から、衛藤副議長、岩田議長、長尾書記

教団HPでは、毎月メッセージ動画（約10分）を配信しています

7月
▶ディヴァン・スクール
マン宣教師
(北海教区)



お世話になって
いる
が、おむ
ろに、自身
が「キリス
ト教」をどうしても受け
入れられない理由を語り
出し、「キリスト教がイ
スラエルを支持してい
る」ことを挙げた。▼米
国の「福音派」キリスト
者の中に、イスラエルを
支持し、シオニズムを標
榜する人が多いことが報
じられているが、キリス
ト者であれば必ずという
わけではない。多くの信
徒は、御言葉として「イ
スラエル」を聞く時、即
現代の国家と結びつけて
はいないだろう。ただ、
連日、報道等で、「イス
ラエル」が否定的な響き
をもって語られている昨
今、「初めて礼拝にきた
人は、どのように受け止
めるだろうか」という思
いもよぎる。▼「イスラ
エル」とは、双子の兄エ
サウの踵をつかむ者とし
て生まれ、長子の特権、
神の祝福を詐取したヤコ
ブが、逃亡生活を経て、
兄の下に帰る時に与えら
れた名だ。兄への恐れを
抱く中、神との格闘を経
て、神からの祝福を勝ち
取り、「イスラエル」と

東海

「伝道厚生強化献金」を開始



左から、新里伝道委員長、柳谷議長、矢戸副議長、石井書記

第114回東海教区総会が5月27日から28日、静岡教会にて開催された。開会礼拝では、日本基督教団信仰告白によって信仰告白をし、宇田真議長による「あなたの聖なる霊によって」と題された説教によって詩編第51編11～15節が説き明かされ、聖餐が執り行われた。開会時の出席議員は、正議員183名中122名。

2024年度議長報告として宇田議長は次のように語った。第2次5カ年計画の3年目として、「ただキリストを信じる信仰により、罪赦され義」とされる教会」の主題のもと、教区各部各委員会、各分区分の歩みが果たされたことへの感謝と、続く計画4年目の主題「聖霊により潔められて義の実を結ぶ教会」についての理解が教区内で深められ共有されることを願う、と述べた。

教区財政に関して。長年縮小傾向にあること、特にそのことが、東海教区において謝儀互助を行う「伝道厚生資金会計」の予算編成に大きな影響を及ぼしていることを示した。その課題への対応として2024年度、制度のあり方と財源について、

の検討が重ねられ、本総会に議案が提案されていることを語った。また2024年10月開催の第43回教団総会において「日本基督教団の全体教会としての一体性を確認する件」が可決されたことについて、教団が機構改定の協議を進めてゆくための土台として、この議案を可決したことへの評価を表した。教団の能登半島地震被災教会・施設の再建支援に関しての活動を紹介し、教区内教会・伝道所に対して、これまでの協力への感謝を述べ、なお祈りを合わせて参りたい、と述べた。

本総会の重要議案の一つとして「伝道厚生強化献金を開始する件」を可決。これは議長報告にある、「伝道厚生資金会計」

の財政的課題への対応として提案されたものである。2025年度より年間400万円を目標として「伝道厚生強化献金」を教区内教会・伝道所に呼びかける、献金運動

を実施する。このことにより、東海教区伝道厚生規則1条にある「教区ならびに教区内教会・伝道所の伝道の進展と連帯を目指す」ことの深化が求められる。

他の重要議案として「按手札式執行に関する件」が可決され、主の恵みによって新たに正教師1名が立てられた。四役選挙結果
【議長】柳谷知之（松本）、川崎一路（清水）、横井

仲夫（長野）、宮本義弘（沼津）
【信徒】林信孝（松本）、森里光生（遠州）、関尚子（沼津）、土田耕造（静岡）
（石井佑二報）

在日韓国朝鮮人連帯特設委員会

シンポジウムの講演録を各教会・伝道所に配布

在日韓国朝鮮人連帯特設委員会の第3回委員会が、6月10日、ズームで行われた。

議長に確定を委ねた旨の報告を聞いた。前回委員会からの継続の協議会は両教団の宣教協約に基づくもので、その時々課題による学びの機会、毎年8月に公表される「平和メッセージ」について協議され、両教団

た。講演録を各教会・伝道所に配布することとし、久世委員長による趣旨説明を加えたうえで、講演者である佐藤信行さんにリライトをしていただいて編集することにした。今後、夏に発送できるように準備する。なお、四国教区の今回のシンポジウムはオンライン参加が可能なので委員会として参加することも視野に入れ、課題共有に努めることとした。

はじめに、前日の9日に行われた「在日大韓基督教会と日本基督教団との宣教協力委員会協議

報告を聞いた。前回委員会からの継続の協議会は両教団の宣教協約に基づくもので、その時々課題による学びの機会、毎年8月に公表される「平和メッセージ」について協議され、両教団

また、「日韓条約60年を問うー日韓市民・宗教者共同宣言」に委員長名で賛同することにした。（岸 憲秀報）

教育委員会

クリスマス献金から5団体を支援

第2回教育委員会が、6月13日にオンラインにて開催された。

クリスマス献金の配分額を協議し、決定した。以下の通り5団体として、海外へはチャイルド・フアンド・ジャパン（ウクライナの子どもたち）150万円、聖公会エルサレム管区運営アハリー・アラブ病院（パレスチナ・ガザ地区）に75万円。国内へは、北陸学院キリスト教センター支援窓口（能登半島支援活動）75万円。北海教区アイヌ民族情報センターとアイヌ奨学金キリスト教協力会に100万円。

また合わせて2025年度の献金先の検討がなされ、引き続き右記の5団体を継続して支援することとした。なお、緊急に支援が必要と判断する場合には追加で献金先に加えることができることを改めて確認した。

9月8日開催予定の第15回教区青年担当者会では、青年たちの置かれている状況を考慮し、カルト問題に詳しい方の講演を聞き、学び、分団の時を持つこととした。

2026年2月上旬開催予定の教区教育担当者会は訪問学校候補先を挙げ、交渉に入った。テーマ

マ、講師などは引き続き委員会にて検討する。季刊「教師の友」は販売部数の低下に伴い、加えてさらなる売り上げは見込めない分析が教団出版局経営改善会議でなされたこと、また教師の友編集委員会より、今年度の発行を終えることが報告された。2026年4月以降のPDFでの配信など具体的な方法に関しては、教師の友編集委員会内に当該チームを組織し、対応していくことが報告された。（堀川 樹報）

沖縄

宜野湾伝道所と志真志伝道所の合併を承認

第86回沖縄教区定期総会が5月25～26日、沖縄キリスト教センターで行われた。

以下の議案を扱い、全て可決された。

◎議案第5号 宜野湾伝道所と志真志伝道所の合併に関する件

◎議案第6号 2024年度沖縄教区経常・特別・収益会計決算報告承認に関する件

◎議案第7号 2024年度沖縄キリスト教センター事業及び決算報告承認に関する件

◎議案第8号 2025年度沖縄教区経常・特別・収益会計予算案承認に関する件

◎議案第9号 2025年度沖縄キリスト教センター事業及び決算報告承認に関する件

◎議案第10号 第86回沖縄教区総会議事録確定に関する件

◎議案第11号 2024年度沖縄キリスト教センター事業及び決算報告承認に関する件

◎議案第12号 総会特別委員会選任に関する件

◎議案第13号 現「霊園管理運営規程」の廃止に関する件

◎議案第14号 新「霊園管理運営規程」制定に関する件

◎議案第15号 新「霊園管理運営規程」制定に関する件

◎議案第16号 新「霊園管理運営規程」制定に関する件

◎議案第17号 新「霊園管理運営規程」制定に関する件

◎議案第18号 新「霊園管理運営規程」制定に関する件

◎議案第19号 新「霊園管理運営規程」制定に関する件

◎議案第20号 新「霊園管理運営規程」制定に関する件

◎議案第21号 新「霊園管理運営規程」制定に関する件

◎議案第22号 新「霊園管理運営規程」制定に関する件

◎議案第23号 新「霊園管理運営規程」制定に関する件

◎議案第24号 新「霊園管理運営規程」制定に関する件

◎議案第25号 新「霊園管理運営規程」制定に関する件

◎議案第26号 新「霊園管理運営規程」制定に関する件

伝 道 報 告

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」
ルカによる福音書第10章17節～20節

伝道推進室より応援した教会・伝道所

伝道の
ともしび

「神の御業を見させていただく」

高知中村教会牧師 内藤 達也

高知中村教会は、高知県西部、有名な清流四万十川の河口にある豊かな自然に囲まれた四万十市（2025年5月現在の人口3万1106人）の町の中心部にあります。教会の近くにある町のシンボルの赤鉄橋から眺める四万十川の風景は絶景です。特に春は菜の花畑が美しく、堤防は春の草花で覆われます。現在の四万十市の課題は、高知県全体もそうですが、高齢化に伴う自然減少と若者層の都市部への流出による人口の減少です。四万十川との支流の後川に囲まれた三角州のほぼ真ん中に立てられた高知中村教会は今年創

立102年を迎えました。その歴史の中で、いつの時代もそうでしたが、今も神の愛と憐れみに満ちた神の御働きによって、その御業を見させていただいています。四国教区に赴任してよく耳にしたのは「神の御業を見させていただく」という言葉でした。自分で何かを成し遂げるといふより、神に仕えつつ神の御業の目撃者となり、その証言者に

りの中、礼拝と祈禱会をささげ続けてまいりました。どのような状況にあっても礼拝を絶やさない、礼拝と祈りをささげ続けるというのがこの教会が最も大切にしていた、そして今もそうしている信仰姿勢です。

さて、先に述べましたような教会の歩みその中のマイナスイメージの出来事も、教区や分区の諸教会の祈りと働きかけもあり、現在では交わりが回復され、教会の経済的な課題も関係教会や教区互助、近隣教会との連帯によって支えられ、この町に福音のともし火を灯すことが許され、今に至っています。

わたしを招聘し、礼拝と共にささげてきた教会員の方々が主の御摂理に従って天に召され、礼拝出席可能な現住陪餐会員がゼロになろうとしていたとき、不思議と2名の転会者が与えられ、4、5名で礼拝をささげ続けてきましたが、昨年2024年度には30代の方2名が（1名が受洗、1名が信仰告白式）与えられ、今年3月に入り、こちらに移住されてきた30、40代の方々も加わり、この地で福音の光を灯し続けることが神のみ旨であることを確信しつつ礼拝をささげています。

教会は、人の思いでは測り知ることのできない神の業、神の御計画によって導かれていることを実感し、感謝しています。

2025年度カルト問題全国連絡会が、6月16（17日）にかけて、在日大韓基督教教会福岡教会を会場に開催された。

発題Ⅰ「韓国と台湾の統一協会事情と課題」では、韓国の老舗異端・カルト問題専門誌「現代宗教」理事長の卓志一氏による講演がなされ、旧統一協会の韓国・米国・日本政治圏におけるロビー活動の歴史と弊害や、新天地の李萬熙の後継体制構築の動向、鄭明析不在の中での摂理の動向、及び日本と台湾における韓国異端動向と課題について、画像を共有しながら丁寧に説明がなされた。

発題Ⅱ「旧統一協会の解散命令と今後について」では、全国霊感商法対策弁護士連絡会の前事務局長の川井康雄弁護士より、スームをつなげて講演が行われた。解散命令について旧統一協会から「行政による信教の自由の侵害だ」と主張されていることに對し、今回の処分は「何を信じているかという思想信条を理由にした処分」ではなく「宗教を名目にした不法行為や反社会的行動に対する処分」であることや、被害の拡大を防ぐため法人格は剥奪されるが、信仰そのものが禁止されるわけではないことなどが説明された。

（柳本伸良報）

4つの発題を聞く

説明された。

発題Ⅲ「宗教がらみの貧困・虐待・医療に関する支援について」では、「宗教2世ホットライン」の相談窓口を務める社会福祉士の松田彩絵氏より、「困ったときに頼れる相談先」などを紹介しながら講演が行われた。いわゆる「宗教2世」問題は、カルトに関係ない人には無関係とみなされてしまいがちであるが、実はあらゆる社会的困難に共通する普遍的な問いを有していることが事例を挙げつつ詳細に説明された。また、背景の違いよりも「聴く姿勢」が問われることも重要な点であることが共有された。

二百目の発題Ⅳ「宗教法人の解散命令と信教の自由について」では、カルト問題全国連絡会世話人の豊田通信教師より、キリスト教の信仰告白としては正統的でも、異端でなくとも、教団・教派としては信頼できるグループに属しているにもかかわらずカルト問題は起こること、カルト化した教会とそうでない教会を区別するものは、教義や信仰告白ではなく、倫理性を失って信徒が欲望を満たすための道具にされてしまう点であることなどが説明された。

（柳本伸良報）

ひととき

ひらまつひろき のりこ
平松宏城・紀子さん

人生の規範を求めて教会に



遠州教会員

平松宏城さん・紀子さん夫妻は、環境や景観に配慮したサステイナブル（持続可能）な都市デザインを仕事とする会社を経営している。昨今の世界の脱炭素へ向かう動向において、この業務の二スの高まりを感じている。

二人共、キリスト者の家庭に育ったが、洗礼を受けるには至らなかった。仕事を通じて出会い、共に歩む人生の規範を求めて、教会の一員になることを求めるに至った。遠州教会において2023年2月に婚約式、クリスマスに受洗。そして翌年4月に結婚式を挙げた。

宏城さんは語る。「私は教会に来て、礼拝を守る時、仕事の中で、様々な人間関係が

業者として普段考えているのとは、『全く違う視座からの言葉』をいただけることがありがたいと思っています。事業の競争の中を生きなければならず、それは大切なことですが、そこで、聖書の言葉は私に『一旦、立ち止まること』を教えてくれます。自分の感じる義が、本当に正しいのか。兄弟の目の中にあるおが肩だけを見て自分の目の中の丸太を見ない愚かさの中に陥っていないか。心を静め、平静を得る。その道しるべを、教会で示されています。」

また紀子さんは言う。「仕事の中で、様々な人間関係が

更に、その方は高知教会百年史から、1927年4月17日の洗礼者に池田のぶさんの名を見つけた。池田のぶさんの母である池田とめさんが洗礼を受けたことを思うと、アンパンマンという存在が、聖書と繋がっていることを思わされた。朝ドラ『あんぱん』が放送されたことで分かったことを通して、高知教会がアンパンマン誕生に少しだけ関わることが出来たのではないかと思います。感謝しています。

（教団総会書記 黒田若雄）



教会外観と最近の礼拝出席メンバー

4月から朝ドラ『あんぱん』が始まって、高知は盛り上がりつつある。週末には、やなせたかしゆかりの地を訪ねる観光客が多く訪れている。

「あんぱん」が始まってからしばらくして、高知分区的他教会のある方から、「主人公『朝田のぶ』のモデルとなった池田のぶさんが高知教会に関わりがあるのではないか」と連絡が入った。合わせて、池田のぶさんと家族が写った写真が送られたが、後に写っていたのは、高知教会の旧会堂であった。

更に、その方は高知教会百年史から、1927年4月17日の洗礼者に池田のぶさんの名を見つけた。池田のぶさんの母である池田とめさんが洗礼を受けたことを思うと、アンパンマンという存在が、聖書と繋がっていることを思わされた。朝ドラ『あんぱん』が放送されたことで分かったことを通して、高知教会がアンパンマン誕生に少しだけ関わることが出来たのではないかと思います。感謝しています。

「あんぱん」の余波

（教団総会書記 黒田若雄）